



# POINT 1 Speedy

施工が簡単で格段のスピード・省力化が図れる化粧板新施工方法です。

# POINT 2 Protect

弾性テープが外部応力を吸収、地震力を軽減し、部材を保護します。

# POINT 3 Eco

接着剤を使用しないため、使用済み接着剤カートリッジなどの廃棄物が低減できます。

スタンド  
Speedy 工法

## スタンドSpeed工法

下張材をせっこうボードとし、特殊接着テープのみで張り付ける**省力化工法**

### ◆ スタンド Speed テープ

■ 製品概要

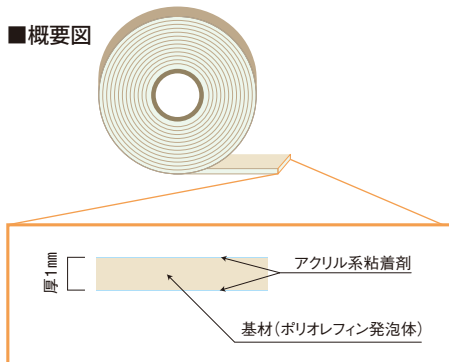
製品名：スタンドSpeedテープ

梱包：32巻/1箱

製品寸法：

厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (m)
1	20	13

■ 概要図

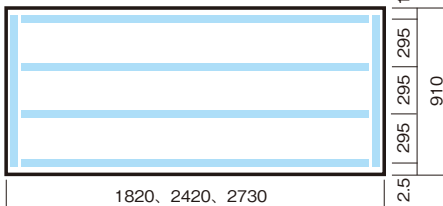


### ◆ スタンド Speed テープの貼り付け

- 化粧板裏面に下図のようにスタンド Speed テープを貼り、強く押し込むように密着させてください。
- ※一度剥がれたテープは再使用せず新しいテープを使用してください。
- ※テープの離型紙は化粧板を張り付ける直前まで剥がさないでください。
- ※施工に際しては標準施工マニュアルを参照してください。

〈標準〉

壁面



両面接着テープをピッチ300mm以内および幅方向上下に張り付けます。

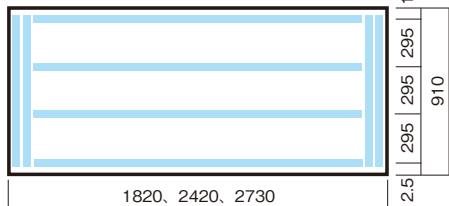
両面テープ 使用量 (m)	910×1820	910×2420	910×2730
	9.0(5.4)	11.4(5.2)	12.6(5.1)

※( )内は㎡当たり

〈寒冷地で冬期施工の場合〉

壁面

※冬期乾燥環境下で長尺品を使用する場合。



両面接着テープをピッチ300mm以内および幅方向上下に2列ずつ張り付けます。

両面テープ 使用量 (m)	910×1820	910×2420	910×2730
	10.6(6.4)	13.0(6.0)	14.3(5.8)

※( )内は㎡当たり

### ◆ 施工後の安全性も実証済み

#### 1 接着強度

接着強度は、せっこうボード下地とした実験値です。下張り材をせっこうボードとした実験では、せっこうボードの紙が破れます。

#### 平面引張り強度試験

	単位	スタンド Speed テープ
実験値	N/mm <sup>2</sup>	0.28
	N/m <sup>2</sup>	280000
接着面積率	%	10
設計接着強度	N/m <sup>2</sup>	2800

※設計接着強度は、以下の安全率で設定しています。  
安全率：10

#### 2 動的変形能試験

(試験機関：弊社技術開発研究所)

■ 試験体

スタンド#400間仕切  
 (下張材せっこうボード厚12.5mm)  
 W:3630mm × H:2730mm

■ 試験方法

(一財)建材試験センター JSTM規格  
 J 2001:1998「非耐力壁の面内せん断曲げによる動的変形能試験方法」に準拠。加振枠上部水平材に正弦波による動的水平変形を強制的に加え、試験体の破損程度、脱落の有無を目視観察する。

■ 試験条件

振動加速度レベル：400gal  
 加振時間：所定の変位角に達するまで…10秒  
 加振振幅を保持……………40秒  
 加振振幅を減少……………10秒

■ 試験結果

変位角	試験体の破損状況
1/200	異常なし
1/150	異常なし
1/120	化粧板異常なし 下張材せっこうボード浮き (下張材取り付けビスのゆるみ)
1/100	化粧板異常なし 下張材せっこうボード浮き (下張材取り付けビスのゆるみ、抜け)
1/75	一部、化粧板に亀裂 ただし、脱落なし

※試験体外周取合部は、観察の対象としません。



### ◆ スタンド Speed テープ ⚠️ 注意 ⚡️ 禁止事項

- ⚠️ 接着面のホコリ等を除去してからテープを貼り付けてください。
- ⚠️ 感圧型の粘着剤のため、貼り付けた後は十分に圧力をかけてください。
- ⚠️ 貼り付け作業時のテープおよび被着体の温度は10℃以上が適しています。このため10～23℃の部屋に放置し、室温に馴染ませてから使用してください。また、結露などの環境にもご注意ください。
- ⚠️ テープ本来の粘着力が発揮されるまで時間がかかるので、数時間は大きな外力がかからないようご注意ください。
- ⚠️ 保管は高温多湿を避け、箱に入れたまま直射日光が当たらない35℃以下の場所に置いてください。また、テープに直接大きな荷重がかからないように保管してください。
- ⚡️ 天井部位への施工は、両面テープ弾性接着剤併用工法で施工してください。

